

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2020/12/31	2021/6/30	2021/7/21	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	27,444.17	28,791.53	27,548.00	30,714.52	2021/2/16	16,358.19	2020/3/19
NYダウ	ドル	30,606.48	34,502.51	34,798.00	35,091.56	2021/5/10	18,213.65	2020/3/23
円/ドル	円	103.25	111.11	110.29	114.55	2018/10/4	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～新型コロナウイルスデルタ株の感染拡大への警戒感から、下落～

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が▲455.08円(▲1.63%)、TOPIXが▲27.78ポイント(▲1.44%)となり、新型コロナウイルスデルタ株の感染拡大への警戒感から、下落しました。業種別(東証33業種)でみると、精密機器、医薬品の2業種が上昇した一方、鉱業、鉄鋼、空運業、石油・石炭製品などの31業種が下落しました。

週初19-20日は、新型コロナウイルスデルタ株の感染拡大を受けて経済活動の正常化が遅れるとの警戒感が広がったことから、米国株市場やアジア株市場が軒並み下落したことに連れ、大幅に下落しました。連休前21日は、前日の米国株市場が一連の企業の好決算を受けて大きく反発したことなどが好感され、上昇して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
7月26日	Mon	ドイツ	IFO企業景況感指数	7月	101.8
		米国	新築住宅販売件数	6月	769千件
		中国	工業利益(前年比)	6月	+36.4%
7月27日	Tue	国際	IMF(国際通貨基金)世界経済見通し(WEO)公表		
		米国	FOMC(米連邦公開市場委員会)28日まで		
		米国	耐久財受注(前月比)	6月	+2.3%
7月29日	Thu	米国	GDP(国内総生産)速報値(年率/前期比)	4-6月期	+6.4%
		米国	失業率	6月	+3.0%
7月30日	Fri	日本	鉱工業生産(前月比)	6月	▲6.5%
		欧州	ユーロ圏CPI(除食品・エネルギー・たばこ/前年比)	7月	+0.9%
		欧州	ユーロ圏失業率	6月	+7.9%
		欧州	ユーロ圏GDP速報値(前期比)	4-6月期	▲0.3%

決算発表	国内	海外
7/26	中外薬、日東電工、コエテック、信越化学、シマノ、7/27 日本取引所、東ガス、TDK、キヤノン、日立建機、エムスリー、日立金、アドテック、東アニ、京王電鉄、小糸製、日産自	7/26 ロッキード、LVMH、エヘンシー、ルイヴィトン、テスラ、7/27 UPS、3M、GE、ユニーク、スターバックス、アドバンスト・マイクロ・デバイス、アップル、ビザ、アルファベット、マイクロソフト、7/28 BASF、ハーレー
7/29	7/29 サイバーA、ユーリック、大東建、東邦ガス、HOYA、積水化学、三菱電、ファナック、東武鉄道、小林製薬、NRI、大和証券G、アコム、オムロン、村田製、京セラ、大日本住友、富士電、富士通、ルネサスエ、大ガス、カブコン、パナソニック、オリパド、キーンズ、信金中金、ZOZO、三井住友F、SBIHD、7/30 テンソー、豊田織、小野薬、第一三共、アイシン、LIXIL、清水建設、小田急電鉄、ヤクルト、JT、コマツ、栗田工業、TOTO、JR西日本、京成電鉄、JR東日本、阪急阪神HD、野村HD、SGHD、ホラルH、NEC、三井住友F、ローム、中部電力、日本M&A、コーセー、ガイシ、エフソン、みずほFG、関西電、SCSK、味の素、ANAHD、日本酸素HD、武田薬、マツダ、マキタ、ヒロセ電機、リソナHD、ミスG、JR東海、豊田通商、商船三井、KDDI、日立、アステラ薬	7/29 ネスレ、ダノン、ロイヤル・ダック、チンシェル、メルク、アストラゼネカ、フォルクスワーゲン、エアバス、ロイズ・ハンキングG、サノフィ、コムキャスト、ノキア、マスターカード、STマイクロエレクトロニクス、アマゾン、キリアド、クレディスイス、サムスン電子、7/30 BNPパリバ、エルメス・インターナショナル、キャピラー、エクソンモービル、P&G、シェブロン、ルノー、ナットウエスト

\* 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～国内主要企業の決算内容や新型コロナウイルスの感染状況などを確認しながら、一進一退の展開～

今週の日本株市場は、国内主要企業の決算内容や新型コロナウイルスの感染状況などを確認しながら、一進一退の展開を予想します。

今週から、国内主要企業の4-6月期決算が本格化しますが、米国をはじめ主要国の経済正常化が進む中で製造業中心に堅調な業績が確認されれば、株価の上昇材料に働くとみられています。但し、7月に東京都に4度目の緊急事態宣言が発出されたことなどから、サービス業を取り巻く状況は依然として厳しく市場が急激に楽観に振れる可能性も低いとみられています。また、世界的な新型コロナウイルスデルタ株の感染拡大により経済活動の正常化が遅れると懸念される中、国内においても感染拡大が止まらず東京オリンピックによる更なる拡大が警戒されていることも上値抑制材料に働くとみられています。これらから、国内連休中の海外株高を好感し上昇して始まった後は、企業業績と感染拡大状況を確認しながら一進一退の展開になると予想しています。

その他の注目材料として、日本では30日の失業率、鉱工業生産、米国では27-28日のFOMC、29日のGDP、欧州では30日のCPI、GDP、ドイツでは26日のIFO企業景況感指数、中国では27日の工業利益、国際では27日のIMF世界経済見通しが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社  
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.

URL: <http://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。)が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。